

# 新藤信夫市政ニュース

令和4年11月  
Vol.35  
さいたま市議会自由民主党  
議員団大宮区西支部  
TEL 647-7713  
FAX 647-7726



## へご挨拶 新藤信夫

秋が深まり、紅葉が美しい季節となつてまいりました。新型コロナウイルス感染症対策が緩和され経済政策としてgottoイートや全国旅行支援(県民割)等を活用して秋の旅行を楽しんでいる方も多いのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症については、今般の第7波は、オミクロン株のB.A.5を主流とするもので第6波をはるかに上回る過去最大の感染拡大となつて、さいたま市では7月29日には第6波をはるかに上回る2,610人の感染者が確認されました。医療機関、保健所等の市内の医療提供体制はたいへん厳しい状況に陥り、人材派遣による人員体制の強化や自宅療養者への食料品配送体制の充実強化を図つてきました。感染が依然として続く状況においては、感染予防に最大の効果が発揮できると考えられているワクチン接種を市民の皆様が手軽に受けていただくような環境作りが、感染を抑える重要な施策となります。さいたま市では身近な医療機関でワクチン接種を受けられるよう市内340カ所の医療機関や駅前、商業施設などに接種会場を設けて接種環境の整備を進めてきました。これからも気を緩

めること無く感染対策を進める必要があります。冬に向かいインフルエンザウイルスの流行も予想され、コロナワクチンの接種と並行してインフルエンザワクチンの接種(有料)も始まっています。マスクの着用や3密を避けることも自己防衛の上から大切なことです。ご協力をお願いいたします。

さて、今年の夏は台風8号が関東地方を縦断するなど、全国各地で台風や、前線の大雨による被害が発生しました。地球温暖化による洪水被害の増大に備えて流域治水の考えが重要になっていきます。従来の洪水を堤防の中に押し込んで早く海に流す考えから、自然環境が持つ機能を利用したグリーンインフラを併用して治水対策を進める必要性が叫ばれています。国土強靱化の観点からも国土交通省とともに水害対策に全力で取り組む必要を感じます。

さいたま市は、2022年のスーモによる関東版住みたい街ランキングで大宮が3位、浦和が5位に入りました。令和4年度の市民意識調査の中間報告でも住みやすいと思う人が87.2%、住み続けたいと思う人が87.1%と最高値となりました。さらに8月に総務省から発表された「人口動態及び世帯数」では令和3年度の人口増加数は2年連続全国1位となつています。さいたま市の人口のピーク

は2035年で約140万人と予測されています。その影響で、市の税収は市民税を中心に増加し、市全体の歳入は毎年伸びています。地域の人口が上昇すると土地の評価が上がって固定資産税も上がり、アパート・マンションやオフィス等の賃料も上がっていきます。

さいたま市の人口が上がることによつて住みやすい街を作ることには必須であり、埼玉県経済の中心都市を創造することは重要課題となり、市街地の再開発を進める必要があります。一方で住宅地についても土地区画整理等の手法で整備されたインフラによつて新たな居住者を迎えることが重要です。

これからも市民の皆様のご意見を大切にして、誰もが住みやすい、住み続けたいと感じていただけるまちづくりに携わっていきたく思います。



### 身近な公共事業

桜木町4丁目を横断する薬師堂から与野中央通りまでの約500mの舗装の打ち替えが完了。透水舗装であったため、もろく舗装表面がひどく荒れていたことから市に打ち替えの要望を出していました。



三橋4丁目、大宮国際中等教育学校北側道路の拡幅工事が始まりました。大宮西高校があった時から乗用車2台がすれ違うのにやつの狭い道路であったため、市に道路拡幅要望を出していました。大宮国際中等教育学校の校舎建設完了後でないと拡幅用地が生み出せなかったため、令和4年度の工事となりました。



### 令和5年度予算編成方針

さいたま市の歳入は、今後10年ほどは人口増加等によつて市税収入の増加が見込まれます。一方、歳出においては、扶助費等の義務的経費の増加等とともに、公共施設の老朽化に対応した長寿命化や未来への投資としての建設事業費の増加が見込まれていて、財政運営上は大きな課題となっています。さらには、新型コロナウイルス感染症対策や物価高騰対策、デジタルトランスフォーメーション(DX)にも取り組む必要があります。こうした状況の中で、令和5年度予算は社会保障費の上昇に伴う義務的経費は引き続き増加して、令和5年度の当初予算額の財源不足額は令和4年度のそれをさらに上回る**179億円**と見込まれます。また令和6年度以降もこの傾向は拡大していくものと予想されます。特にさいたま市において、人口減少が始まる令和15年度頃からは深刻な状況となる可能性が高いと思われます。

令和5年度さいたま市は政令指定都市施行20年を迎えます。当市は引き続き将来の人口減少を見据えて、本市の人口がピークを迎えるまでの「運命の10年間」に「上質な生活都市」の実現、「東日本の中枢都市」という将来都市像の実現のために重点的に予算を配分して、総合振興計画を着実に推進してSDGsの達成に向けて持続可能な都市としての基礎を構築していく必要があるとしています。

具体的には、予算編成に当たっては、以下の取り組みによつて財政の健全性を維持し、将来世代に過度な負担を先送りしないこととしています。

- 1. 感染症、物価高騰、自然災害への対応
- 2. 市政の重要施策の推進
- 3. DXの推進
- 4. 局・区長マネジメントの推進
- 5. 歳出の徹底した見直しと効率的な行政運営
- 6. 歳入の確保と新たな財源の創出
- 7. 効率的で迅速な市民サービスの提供
- 8. 公共施設マネジメント計画に基づく財政負担の平準化
- 9. 国等の動向の的確な把握と対応

# 市職員の定年引き上げ等の条例可決

10月21日に最終日を迎えた9月定例会において、市職員の定年等に関する条例を一部改正する条例が可決しました。この条例改正はすでに令和3年6月11日交付の地方公務員法の一部を改正する法律に従い改正するもので、少子高齢化進展や生産年齢人口の減少を踏まえ定年を段階的に引き上げるとともに、組織の活力の維持や高齢期における多様な職業生活設計の支援などを図るための制度が設けられています。さいたま市における改正が必要な条例は15条例に及びますがこれらを一括して改正することとなりました。

## 改正等の概要

定年の引き上げについては、国家公務員と同様に令和5年から原則として2年に1歳ずつ段階的に引き上げて令和13年までに65歳まで引き上げます。(図1)そして、管理監督職の職員(管理職手当受給者)は、60歳に達した日からその年度の内に原則として管理監督以外の職に降任させ、役職を調整幹等とします。(図3)また、働き方の選択の幅を広げるため、60歳以降65歳になる年度以前に退職した職員を本人の意向を踏まえた上で、短時間勤務の職で再任できる制度(現行の再任用と同様の仕組み)としました。(図2)

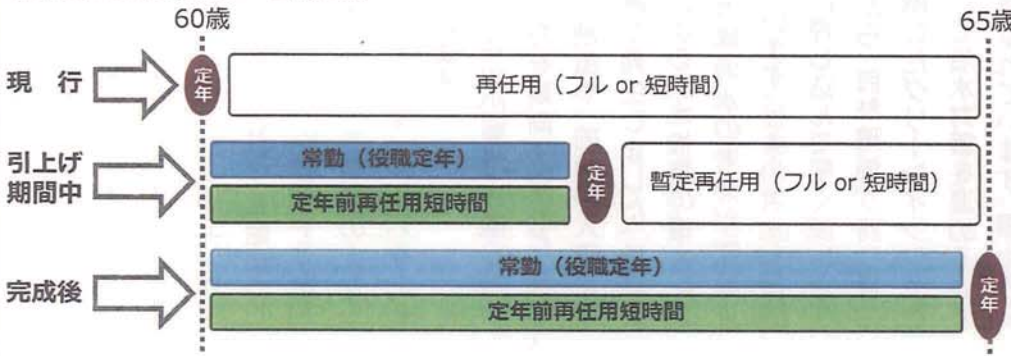
60歳に達した職員の給与については、当分の間60歳に達した年度以降は降任する以前の7割水準に調整額を加えた額となります。また、60歳時以降の退職手当については、60歳時に勤続35年以上か、未満かによって区分し算定することとなります。

### 段階的引上げのスケジュール(図1)

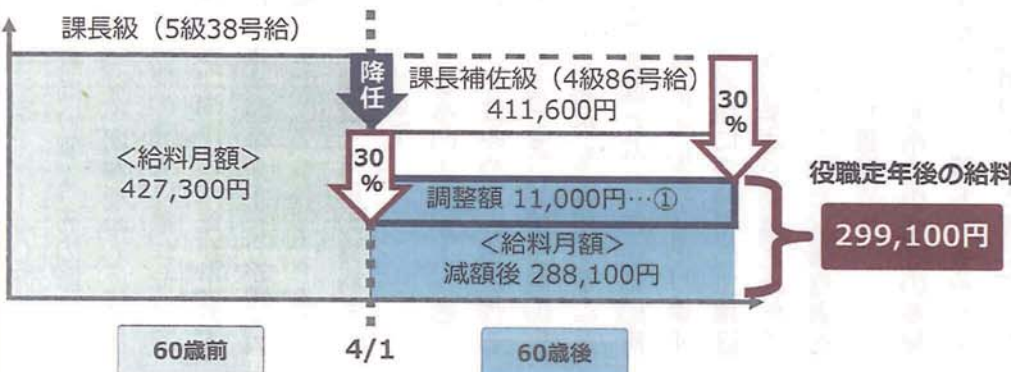
年度	現行	R5~6	R7~8	R9~10	R11~12	R13~
定年	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳

※ 医師・歯科医師の定年は、引き続き65歳とする。

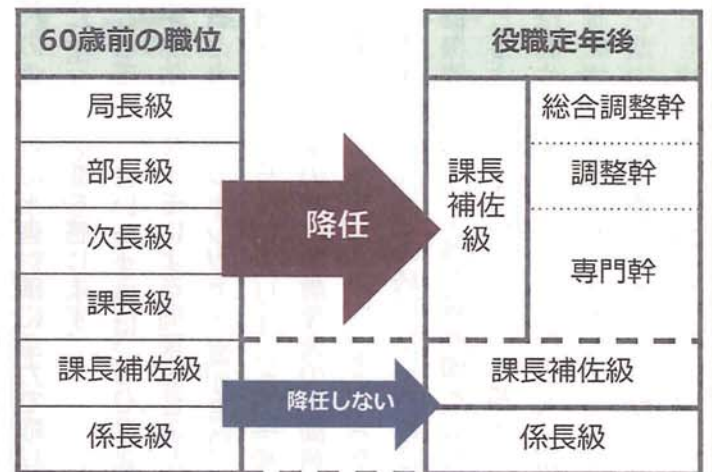
### 60歳以上の任用(イメージ)(図2)



### 60歳に達した課長級職員の給与(イメージ)(図4)



### 定年引上げ後の役取(図3)



### 60歳時以降に退職した場合の退職手当支給額(図5)

60歳時の年度末の勤続期間	退職手当支給額
勤続35年以上	退職手当の基本額 + 調整額...①
勤続35年未満	退職手当の基本額 + 調整額...① + 退職時の給料月額(給料月額7割措置適用後) × (退職時の支給率 - 60歳時の支給率)...②

# 大規模劇場の建て替え、リニューアル

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていた令和2年度～令和4年度前半までは、さいたま市内の大規模な劇場は感染防止のため入場者数の制限がかけられ、全く稼働できない期間も続きひっそりとしていました。そんな中で移転やリニューアル工事を行った劇場もあって、コロナ後の利用者の増加が期待されています。今回は客席数が700席以上でフルオーケストラの演奏が可能なホールについて、現状を調べてみました。

埼玉会館は1315席の大ホールを有する県営施設で、すでに大ホールのリニューアル工事が終わっています。ソニックシティのホール棟、彩の国さいたま芸術劇場が改修工事のため利用件数も多く、予約もほとんど空きがない状態となっています。

さいたま市文化センターは5年ほど前に外壁棟の改修工事が終わり、新型コロナウイルス感染防止のための入場制限も解除になって、稼働状況もコロナ以前に戻りつつあります。

ソニックシティのホール棟は大規模改修のため全館休館中、令和3年7月から始まった工事は来年(令和5年)2月に完了する予定です。

※各劇場のHPより

県下随一、国内でも最大級の2505席を有する大ホールはすでに予約の受付が始まっており利用件数は休館前に戻る予想です。来年度には埼玉会館や、レイボックホール(市民会館おおみや)などに分散していた定期公演などは、ほぼソニックシティに戻ってきます。

埼玉県が運営する彩の国さいたま芸術劇場は芸術の街中央区(与野)を代表する施設で、令和6年に開設30周年を迎えます。現在は令和6年2月までの予定で大規模改修に入っていて全館休館となっています。さらに地域の皆様に愛される施設に生まれ変わることが期待されています。

レイボックホール(市民会館おおみや)は今年4月に大宮門街に移設オープンした市の施設で、1400席を有しています。ソニックシティのホール棟や彩の国さいたま芸術劇場が休館中のため、会館当初から予約も多く順調な滑りだとなりました。

市民会館うらわは、老朽化のため休館中で、浦和駅西口前で施工が始まった高砂南地区の再開発ビルが完成次第移転する予定となっています。



埼玉会館 (大ホール)



さいたま市文化センター (大ホール客席)



大宮ソニックシティ (大ホール)改修中



彩の国さいたま芸術劇場 (大ホール)改修中



レイボックホール (大ホール)